

# 令和6年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

都市環境整備課

## 1 施設の概要等

施設名	広島県立びんご運動公園		
所在地	尾道市栗原町997		
設置目的	備後地域住民のスポーツと多様なレクリエーション活動の振興		
施設・設備	健康スポーツセンター、陸上競技場、テニスコート、野球場、球技場、コミュニティープール、冒険の森、多目的広場、オートキャンプ場など		
指定管理者	5期目	R3.4.1~R8.3.31	イズミテクノ・RCC文化センター・シンコースポーツ共同企業体
	4期目	H28.4.1~R3.3.31	イズミテクノ・RCC文化センター・シンコースポーツ共同企業体
	3期目	H23.4.1~H28.3.31	ポラーノグループびんご
	2期目	H20.4.1~H23.3.31	ポラーノグループびんご
	1期目	H17.4.1~H20.3.31	尾道市

## 2 施設利用状況

利用状況	年度		目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	5期	R6		729,761人	549,009人	52,094人
R5			698,320人	496,915人	△11,512人	△201,405人(71.2%)
R4			674,174人	508,427人	107,678人	△165,747人(75.4%)
R3			634,174人	400,749人	△244,777人	△233,425人(63.2%)
	4期平均 H28~R2		708,150人	645,526人	△26,419人	△62,624人(91.2%)
	3期平均 H23~H27		667,914人	671,945人	19,073人	4,031人(100.6%)
	2期平均 H20~H22		656,450人	652,872人	22,544人	△3,578人(99.5%)
	1期平均 H17~H19		610,560人	630,328人	43,388人	19,768人(103.2%)
	H16(導入前)		—	586,940人	—	—
増減理由	○球技場の人工芝化に伴う利用者の大幅増 ○キャンプブームの衰退に伴う利用者の大幅減					

## 3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
		アンケートの実施
	利用者意見箱の設置	公園利用者 7名
	受付、打合せでの聞き取り	スポーツ団体 27団体
	【主な意見】	【その対応状況】
	夜間のテニスコートで暗い箇所がある	ナイター照明塔を点検し電球の取替工事を行った
	プール結露により水滴が落下する	ロビー等上部に結露材の塗布を行った
	散策路周辺の枯木に倒木の恐れがある	枯木は伐採し、危険性のある木も伐採除去した

## 4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次報告書
	日報(必要随時)	○	事故等報告書
管理運営会議(3回・現地)	【特記事項等】 利用人数及び利用料収入の回復状況と、光熱水費高騰による経費増		
現地調査(7月、12月ほか随時実施)	【指定管理者の意見】 収支改善のため利用料金の見直しを要望		
	【県の対応】 光熱水費高騰など一部経費について包括協定を見直し、委託料の増額により負担した		

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	5期	R6	174,952		3,874	料金収入 (決算額)	5期	R6
R5			171,078	△20,551	R5	65,165			△700
R4			191,629	2,200	R4	65,865			31,202
R3			189,429	30,677	R3	34,663			△34,623
4期平均H28～R2		158,752	10,466	4期平均H28～R2		69,286		2,225	
3期平均H23～H27		148,286	△214	3期平均H23～H27		67,061		1,920	
2期平均H20～H22		148,500	△18,751	2期平均H20～H22		65,141		4,993	
1期平均H17～H19		167,251	△6,508	1期平均H17～H19		60,148		△1,605	
H16 (導入前)		173,759	—	H16 (導入前)		61,753		—	

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R6 決算額	R5 決算額	前年度差	主な増減理由等
収入	県委託料	174,952	171,078	3,874	光熱水費高騰分県補填額増
	料金収入 (※1)	74,406	65,165	9,241	利用者回復による収入増
	その他収入	0	0	0	
	計(A)	249,358	236,243	13,115	
支出	人件費	82,272	81,242	1,030	プール再開に伴う人件費増
	光熱水費	66,708	47,542	19,166	光熱水費単価増とプール及び球技場改修工事完了による使用量増
	設備等保守点検費	17,091	17,091	0	
	清掃・警備費等	72,984	72,172	812	危険樹木伐採費用増
	施設維持修繕費	1,961	2,210	△249	備品購入の増による修繕費の減
	事務局費	14,764	15,864	△1,100	イベント広告物等配布物の見直しによる減
	その他	4,748	4,587	161	保険料金の増
	計(B)	260,528	240,708	19,820	
収支①(A-B)		△11,170	△4,465	△6,705	
自主事業 (※2)	収入(C)	38,942	32,174	6,768	プール改修工事終了に伴う水泳教室及び物品販売再開による増
	支出(D)	26,629	24,428	2,201	プール改修工事終了に伴う水泳教室及び物品販売再開による増
	収支②(C-D)	12,313	7,746	4,567	
合計収支 (①+②)		1,143	3,281	△2,138	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

## 7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の設置目的に沿った業務実績</li> <li>○業務の実施による、県民サービスの向上</li> <li>○業務の実施による、施設の利用促進</li> <li>○施設の維持管理</li> </ul>	<p>球技場の改修完了に伴い、リニューアルオープンイベントを開催。競技団体等への宣伝も行うことで、今までの約2倍の利用増につながった。</p> <p>競技団体と連携をとり、トップアスリートによる体験講座やニュースポーツの体験講座の開催など、スポーツへの関心の増進を図った。</p> <p>車いすテニス等のパラスポーツの体験会を開催し、障がいのある方の施設利用増進を図った。</p> <p>プールボイラーの損傷によるプールの臨時休業が発生したが、早期の修繕発注と広報告知による利用者への周知と理解を図った。</p>	<p>リニューアルオープンによる利用者の増だけでなく、継続的な利用者の増につながる事が出来た。</p> <p>競技団体とも連携し、施設の設置目的に沿った業務行い利用促進を図った。</p> <p>多角的なアプローチにより、施設利用者の増加を図った。</p> <p>突発的な故障に対し、迅速に対応を行った。</p>
管理の人的物的基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織体制の見直し</li> <li>○効率的な業務運営</li> <li>○収支の適正</li> </ul>	<p>スタッフの入替はあったが、各施設の責任者を明確にして利用者には支障が出ないようにした。定期ミーティングや社内研修により、スタッフのスキル向上を図った。</p> <p>利用者数が回復する中、電子決済や電子メールによる利用申請の受付など、効率的な運営を図った。</p> <p>人件費や光熱水費が高騰しており経費削減に苦慮している。</p>	<p>施設の更新等に合わせ外部委託する点検業務の内容を見直すなど、効率的な業務運営を行った。</p> <p>デジタル技術の活用により、運営の効率化を図った。</p>
総括		<p>一部の施設においては、コロナ禍前を上回る利用収入となった。全体としても、回復傾向にある。</p> <p>ボイラーの故障により利用休止期間が発生したものの、早期解決に努めた。</p> <p>スポーツ教室の継続により受講者を増やすとともに、トップ選手による直接指導の講座を積極的に開催することで、利用者の満足度向上に努めた。</p>	<p>高騰の続く光熱水費については、契約の見直しにより効率的な縮減に取り組んだ。</p> <p>施設老朽化等に伴う大規模な改修工事があり、施設の利用が制限される中で、利用者の維持に努めた。</p> <p>施設の老朽化およびバリアフリー化の推進のため、今後も指定管理者と連携し計画的に改修工事を進める必要がある。</p>

## 8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和7年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターハイテニス競技会場として会場整備と安全な運営への協力実施。</li> <li>○プロ野球開催による来場者の増進。</li> <li>○キッチンカーマルシェ開催による賑わいの創出。</li> <li>○パラスポーツへの理解と体験機会を図り、スポーツの多様化に対応する。</li> <li>○園内花壇の整備とともに樹木点検による倒木事故等の防止を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者ニーズに応えた老朽化改修を進め、利用者増に取り組む。</li> <li>○施設のバリアフリー化および車いす等での施設利用にあたってのルール整備を進める必要がある。</li> </ul>
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和5年度の落雷による設備損傷の復旧および老朽化した施設と設備改修計画について県と連携し効率的な改善を図る。</li> <li>○トイレ洋式化未実施施設の改修を推進する。</li> <li>○Park-PFI導入計画による園内施設の拡充への連携協力を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化施設の更新と合わせ灯具のLED化を推進する。</li> <li>○トイレ改修とともに施設全体のバリアフリー化を検討する。</li> <li>○Park-PFIによる事業者と現指定管理者との調整および利用者増に対応できる環境整備を推進する。</li> </ul>